

チームアプローチ



令和6年8月27日（火）広島産業会館西展示場 第二展示場
令和6年8月30日（金）福山商工会議所 101会議室

（社福）広島県リハビリテーション協会
特定相談支援事業所ときわ 相談支援専門員
太刀掛 司

1

科目のねらい

他の多様な職種に対する理解・尊重に基づいてチームを組織し円滑に機能させるための技術向上を図る

学習のポイント

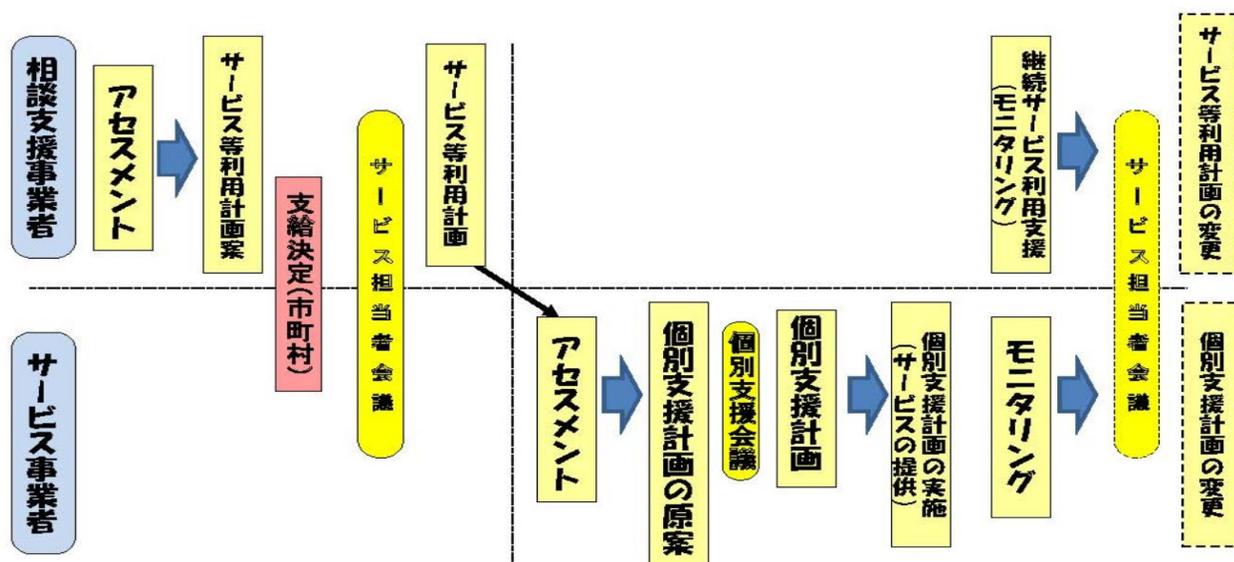
知識と実践（事例の結びつけ）

- ①多職種連携及びチームアプローチ
- ②ケアマネジメントプロセスとの関係
- ③チームによる意思決定支援
- ④連携のための配慮
- ⑤担当者会議

引用：現任研修テキストP158

3

ケアマネジメントプロセスの一連の流れ



引用：厚生労働省資料

4

連携が必要な理由

昨今、社会における生活課題は、障がいの有無にかかわらず多様で複雑化している



一人の専門職/一つの機関



対応することが難しい



複雑に絡み合ったニーズを紐解く

参考：現任研修テキストP160

5

連携・チームとは

連携

- 連携を密に取り合ってひとつの目的のために物事を行うこと

チーム

- ある特定の目的のために多様な人材が集まり協働を通じて相乗効果を生み出す少人数の集合体

引用：現任研修テキストP161

6

連携の課題

保健・医療・介護等多様な専門職は、それぞれの役割に加えて受けてきた教育も違うため、利用者の理解やニーズの捉え方、支援方法に対する考え方が異なる事も少なくない。

同じ職種であっても事業所によって支援方法に対する考え方が異なる事もある



ニーズの捉え方、支援の方法、価値観が違うことを認めたくえでチームに関わることの必要性を理解する（チームアプローチ）

引用：現任研修テキストP161

7

チームワークの利点 (1)

- ①支援者それぞれに見せる顔が異なる事もあるため、チームで関わることで全体像をとらえることができる
- ②チームで役割分担ができる（そっと背中を押す係/受け止める係）
- ③多職種で関わることで専門的な視点が多角的になる
(専門分野により見え方が違う)

チームワークの利点 (2)

- ④役割が明確になることで誰に何を聞けば良いのか分かり安くなる
- ⑤支援者が一人で考えなくてよい
- ⑥支援をあきらめない

参考：野中猛氏「多職種連携の技術～地域生活支援のための理論と実践～」

9

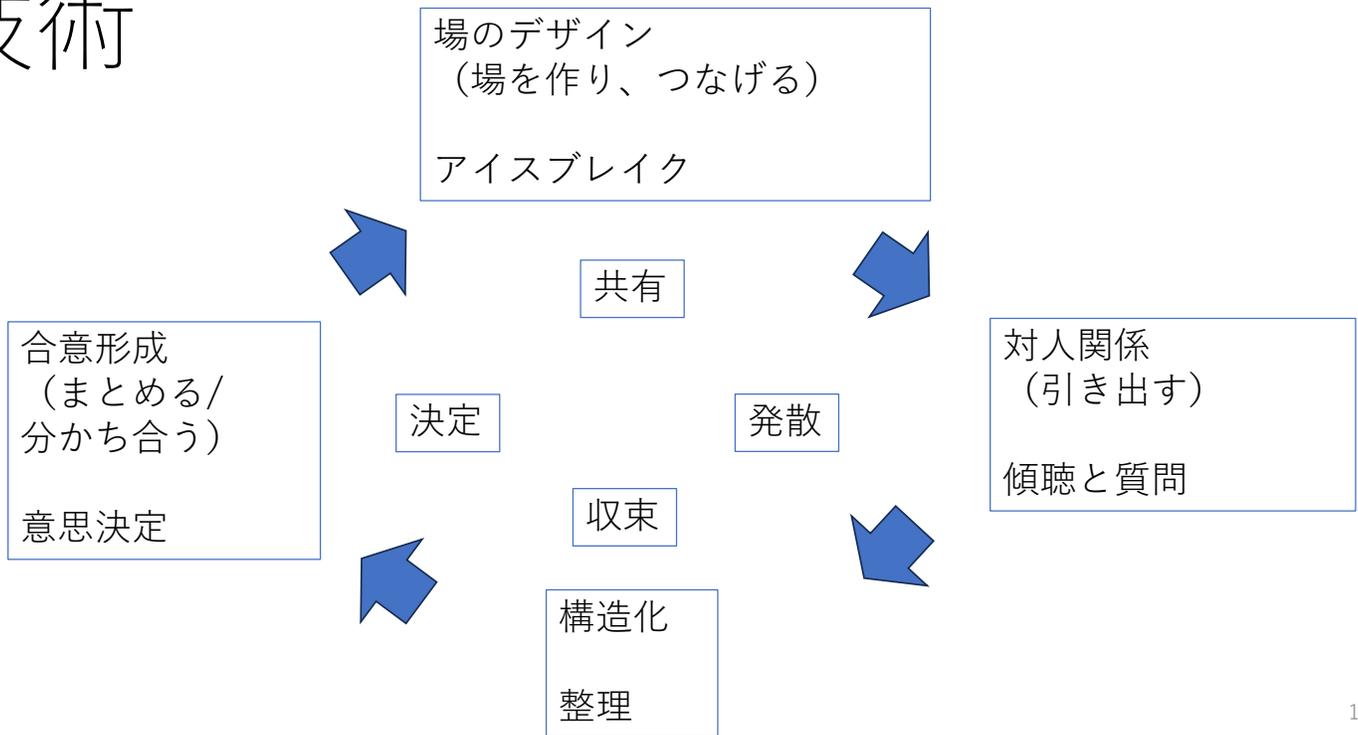
プレゼンテーション技術

異なった価値観や異なった思考法をする多職種のあいだで意見交換をするためには自分の持っている情報を多職種にわかりやすく示す必要がある。プレゼンテーションは多職種連携の時代になって、改めて大切な技術のひとつ

参考：野中猛氏「多職種連携の技術～地域生活支援のための理論と実践～」

10

会議におけるファシリテーション技術



11

相談支援専門員に求められる連携

単なる連携や連絡というレベルではなく調整・マネジメントを含めた協働



連携することにより、グループを作るのではなく本人を支援するチームを作る

参考：現任研修テキストP161

12

事例から見る多職種連携

概略

- 関係機関と連携して長期間の自宅にいた生活から徐々に地域に出て生活することが出来るようになった精神障がいのある方の事例

• プロフィール

Aさん 40代/男性

疾患名 自閉スペクトラム症/うつ病

手帳 精神保健福祉手帳2級

住まい 一軒家で独り暮らし/他県在住の兄がいる



13

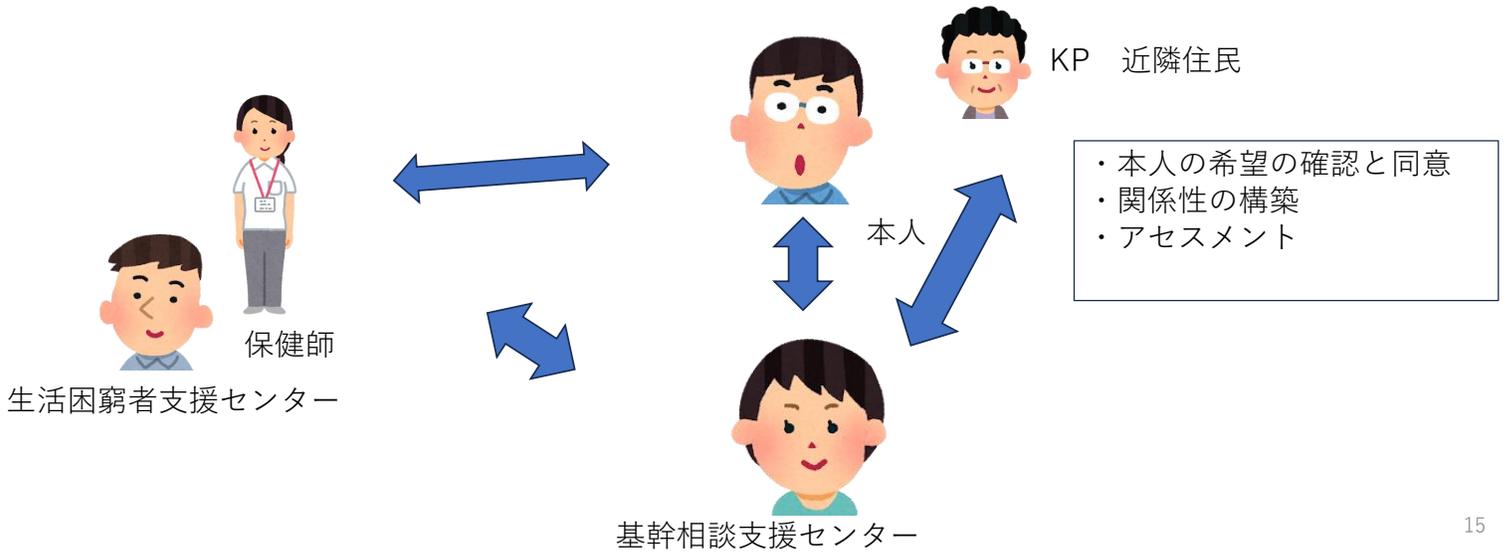
事例の概要

高校生の時のいじめが理由で不登校となる。20歳の時アルバイトをするも環境に馴染めず数か月で退職。30代後半まで外出することが極めて少ない生活。両親は医療機関や相談機関に対して前向きではなく支援機関に繋がらず、いわゆるひきこもり生活の長期化。

40歳の頃、両親が相次いで病気で亡くなる。他県在住の兄が不定期に食べ物などの身の回りの支援を行っている。自宅は使用できないと思われる物であふれている状況。KPの近隣住民が基幹相談支援センターに相談。行政の保健師と共に関わりが開始。

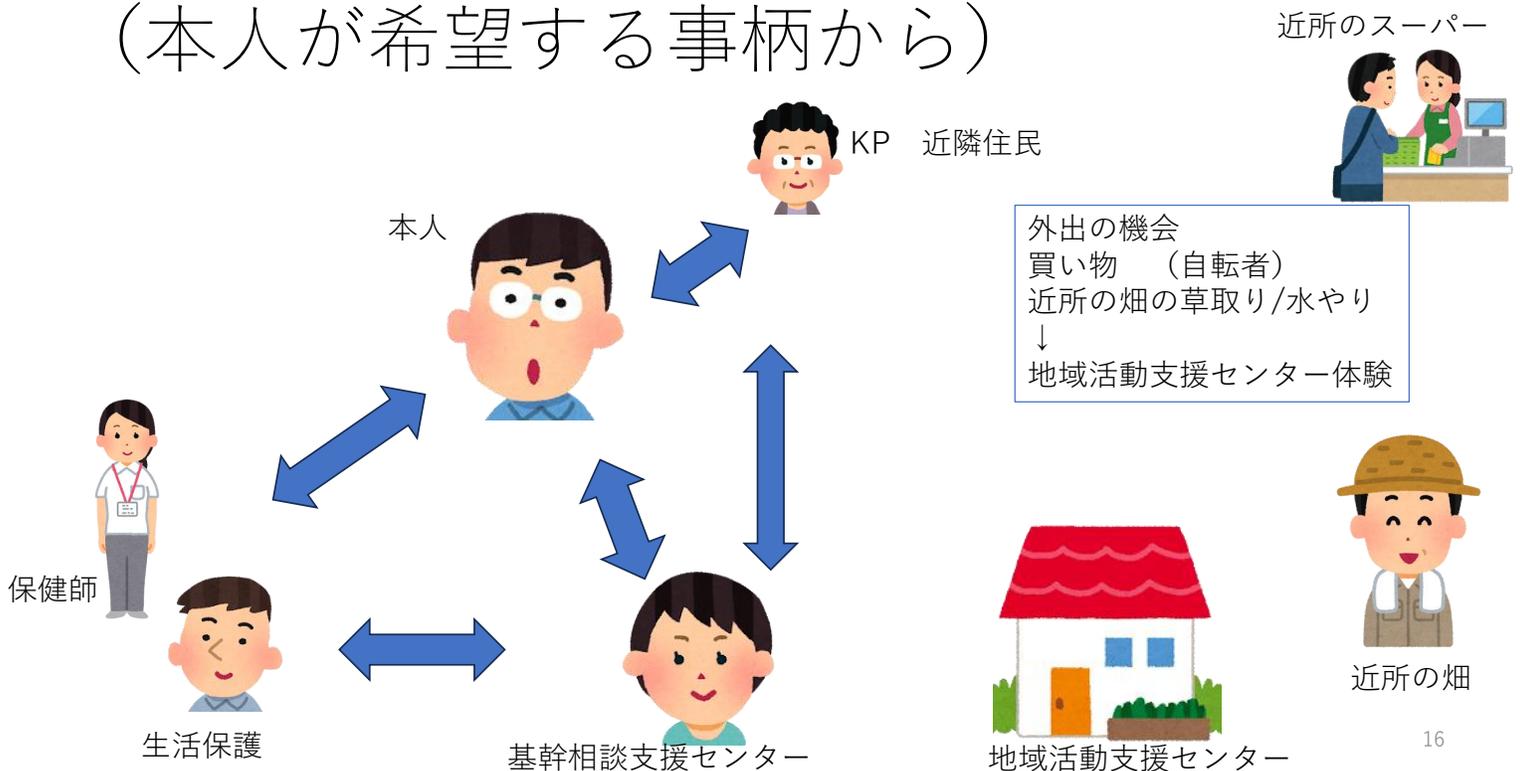
14

ステージ1 支援者との関わりスタート



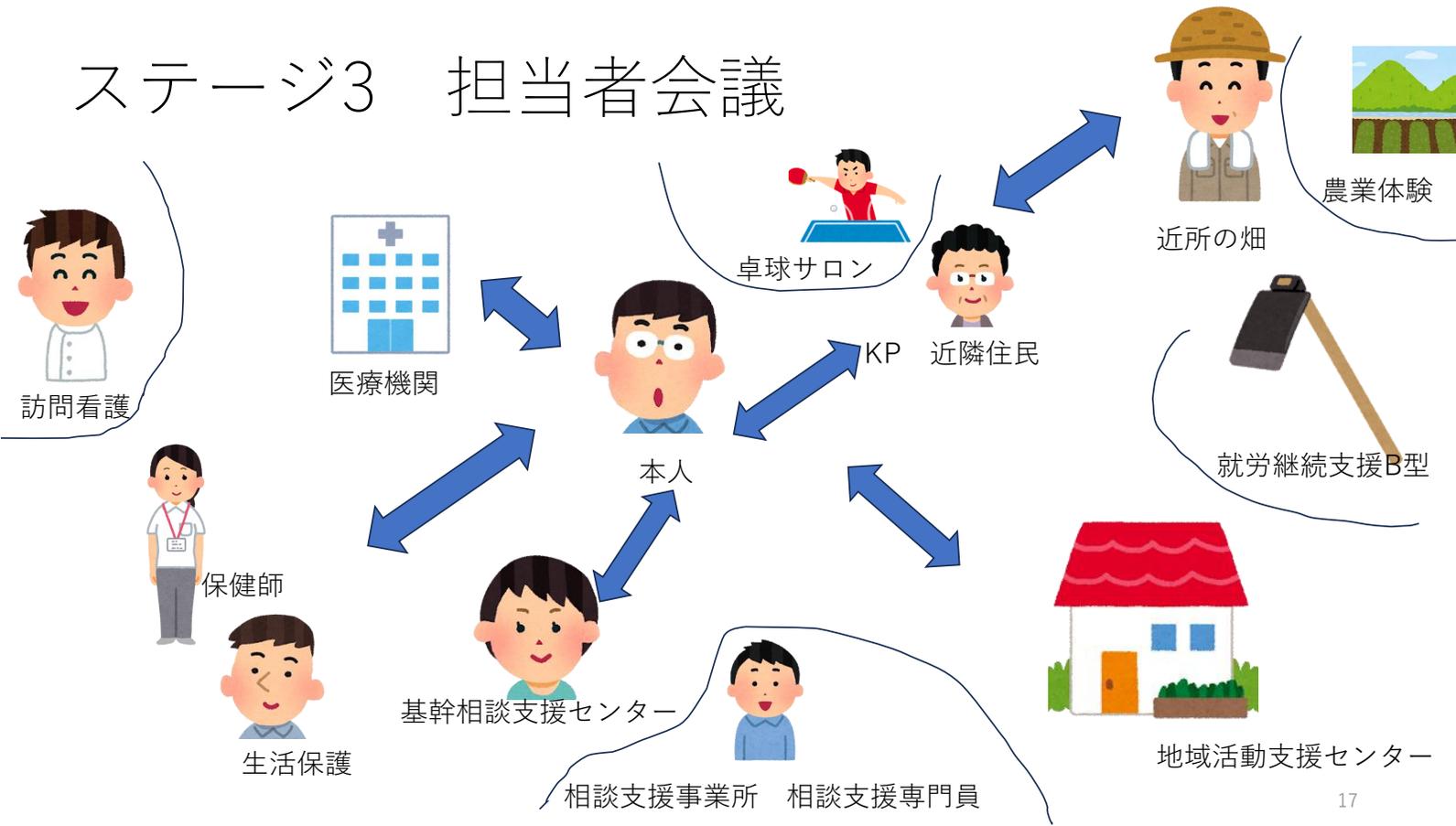
15

ステージ2 具体的支援 (本人が希望する事柄から)

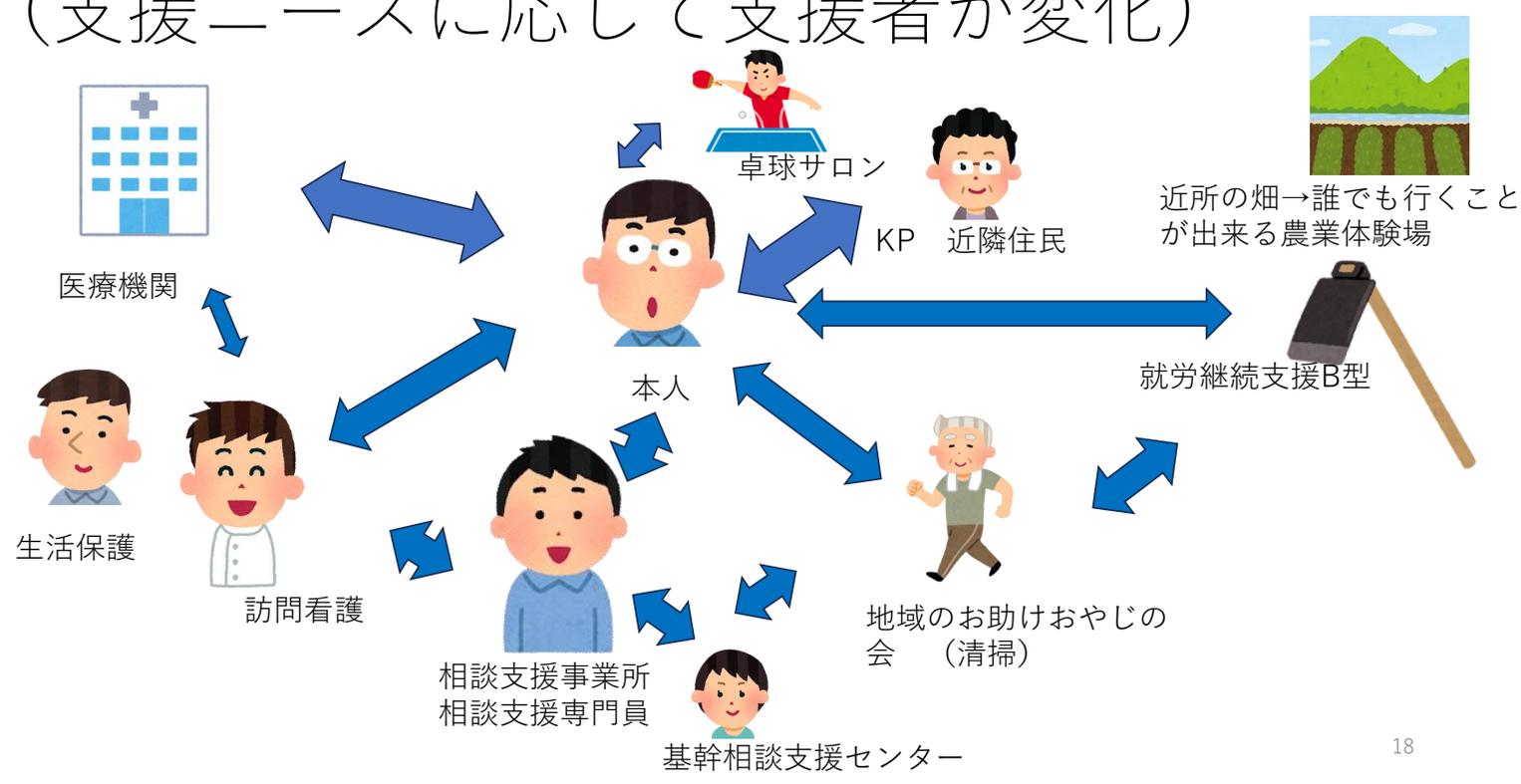


16

ステージ3 担当者会議



ステージ4 更なる支援の展開 (支援ニーズに応じて支援者が変化)



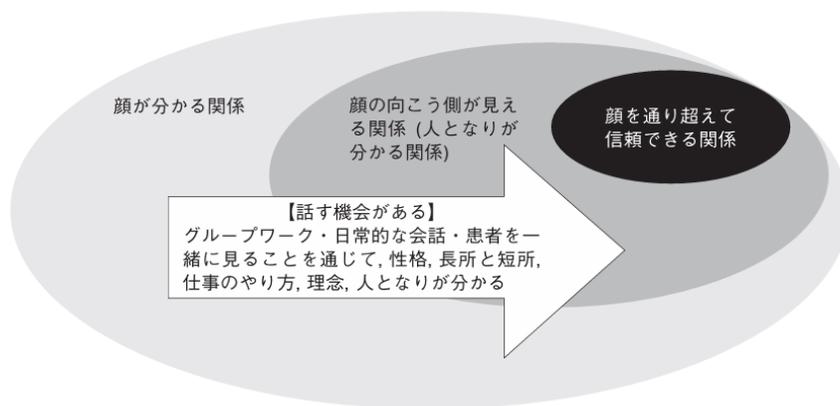
ストレングスアセスメント

ストレングス・アセスメント票		
書き出し【●】本人の言葉	【○】家族等の言葉	【・】事実や行動(社会資源等)
本人の名前(通称):		事例提供者氏名:
A 現在のストレングス 私の今のストレングス 個人:環境	B (未来の)希望:願望:熱望 何がしたいか:何がほしいか	C 過去の資源 どんなストレングスを使ってきたか
家・生活環境(住居、日常生活、移動手段、行動範囲など)		
経済状況		
日中活動(就労、教育、専門知識、通所、通学含む)		
社会的支援(家族、友人との関係、所属、サポートネットワーク、支援的人間関係)		
健康状態(快適な状態、受診など医療を含む)		
余暇活動(趣味、レクリエーション)		
Spirituality 文化 / 生きがい(大事にしていること、人生観、家族観、価値観)		
わたしの希望・願望の優先順位は		

19

引用「相談支援従事者研修ガイドラインの作成及び普及事業 現任モデル研修資料 2019年」

顔の見える関係



「顔が分かるから安心して連絡しやすい」
「役割を果たせるキーパーソンが分かる」
「相手に合わせて自分の対応を変えるようになる」
「同じことを繰り返して信頼を得ることで効率が良くなる」
「親近感がわく」
「責任のある対応をする」

→ 連携しやすくなる

引用「地域緩和ケアにおける顔の見える関係とは何か？」森田達也氏、野末よし子氏、井村千鶴氏

ある相談者の言葉

「会議を定期的で開催されているが、何のための会議なのか分からない」

「沢山の人に関わっているけど皆言うことが違う。余計混乱する」

「初めから答えが決まっている様に感じる。私が来る前にみんなです話をしたでしょ」

「誰に何を相談したら良いか分からない」

21

まとめに変えて

- ・トラブルが起きている時だけでなく、良い事も連携を
- ・顔が見える関係から相談出来る関係（連携）を
- ・連携することを怖がらない



22